



Gino Sarfattiデザイン
「Chandelier」(1958年)

発行日 平成25年2月6日

発行者

富山・ミラノデザイン交流倶楽部

高岡市オフィスパーク 5

社団法人富山県デザイン協会内

TEL.0766-63-7140

執筆 池田美雪 * ミラノ在住

デザインコンペ受賞作品とデザイン展覧会

今回のミラノ通信では、昨年開催されたデザイン・コンペで受賞した作品、またデザインに関する展覧会を通して、現在求められているデザインの切り口をお伝えしたい。

ライティング・デザインのパイオニア - Gino Sarfattiの回顧展

ライティング・デザインの先駆けデザイナーであるGino Sarfattiの生誕百年を記念して、ミラノ・トリエンナーレ・デザイン・ミュージアムにて、9月11日より11月11日まで回顧展が開催された。

開催に当たり、イタリア国外のコレクターからの協力が大きな支えとなったと同時に、主軸となる作品群の多くはFLOS社が持つコレクションから選出された。今回、制作年代を越えて1つにまとめられた230点の展示作品によって、Gino Sarfattiが生涯を通してイタリアン・デザインの発展に大きく貢献し、ライティング・デザインの先駆けであったことが改めて明らかとなった。

Gino Sarfattiは1912年、スペイン系ユダヤ人の父、カソリック系の母の間にヴェネチアで生まれ、家業を継ぐ為にジェノヴァ大学で海軍航空工学を修めたが、国政の影響により家業が潰れ、父の友人の元で見習いとして働き始める。この経験がきっかけとなり、1939年より照明技術の分野に従事し、この年に照明器具メーカーArteluce社を創立させたが、第2次世界大戦中はユダヤ人への迫害を避けるためスイスへ疎開し、1945年の終戦後にイタリアへ戻り事業を再開させた。

彼はArteluce社を介して、製品の製造から国際市場への販売に至る一連の流れを組織し、1930年代後半より70年代前半までの間、30年以上絶え間なく活動が続けたのだが、その結果生み出した照明器具の数はなんと650点に至る。同時に、形状、素材、製造技術、光源、照明技術とデザイン性の効果、これらの全ての要素を革新的な手段で開発していき、50年、60年代にはArteluce社は当時の有名デザイナーの参加によって、その名が全世界に知られることとなる。Arteluce社の照明器具は数々のデザイン賞を受け、1954年と1955年には、イタリアで最高のデザイン賞、金のコンパス賞を受けている。

彼の創り出した数々の照明器具を見た時に、流行の枠を超えた、普遍的な美しさやデザイン構成の斬新さに驚かされるのだが、その秘密は、彼自身の感覚として持ち続けた光と空間の絆をいかに形に表すことができるか、実験的な方法で様々な角度から開発を行ない、「新しい光」を模索し続けたことなのではないだろうか。



照明器具メーカーARTELUCEを設立し、生涯を賭けて、イタリアのライティング・デザインを先導したGino Sarfattiの肖像写真。

写真は、FLOS社ストーリー・アーカイヴの所蔵

ミラノの中心地マッテオッティ通りに最初に開業したショールームは、1951年にMarco Zanuzoによって設計され、その10年後にデッラ・スピーガ通りに移転したショールームは生涯の親友であったV.Viganòによって設計された。1973年、Arteluce社はFLOS社へ売却され34年の歴史に幕を閉じ、Gino Sarfattiは1984年に72歳で生涯を閉じた。



Mod 237
Arteluce社, 1960年制作
The Complete Designer's Lights (1950-1990)』
より引用(JRP Ringier出版社)
© Fabrice GOUSSET et Bruno ROUSSEAUD
照明器具はパリのKreoアートギャラリー所有



Mod 604
Arteluce社, 1969年制作
「The Complete Designer's Lights (1950-1990)」より引用(JRP Ringier出版社)
© Fabrice GOUSSET et Bruno ROUSSEAUD
照明器具はパリのKreoアートギャラリー所有



Mod 607
Arteluce社, 1971年制作
Gino Sarfatti自身が持つ照明器具
写真はSandra e Riccardo Sarfattiアーカイブの所蔵

世界最高峰ファッション・デザイナーの登竜門 - ITS

イタリア国内の数あるファッション・デザインのコンペの中でも「ITS」は、若手の登竜門として世界最高の地位を維持している。というのも、2001年に若手のクリエイターを発掘する目的でスタートしたコンペだが通常のコンペとは異なり、賞を授与した後にもコンスタントにクリエイターたちへのサポートを行ない、クリエイターと企業間のネットワークを育てていくことをも主旨としているからだ。賞を受けたデザイナーたちへは、コレクションを作る資金やその発表の場が与えられ、また積極的にITSの活動へ参加できる資格も与えられる。

2012年で第11回目を迎えたITSは、トリエステ市に本社を持つファッション・メーカーDIESEL社他、YKK社、SWAROVSKI ELEMENTS社など5社が主催し、フリーウリ・ヴェネチア・ジューリア州とトリエステ市の協賛により7月13日、14日の両日に授賞式が行われた。

第11回目という区切りに、コンペの名称はITS#からITSに変更され、写真部門が除去されると同時にファッション、アクセサリ、ジュエリー部門の3部門に集約される編成となった。

今回は、世界54カ国から839人のデザイナーおよび、延べ329校のエントリーがあり、3部門併せて計12の賞が授与された。たいへん嬉しいことに、大阪出身の日本人ファッションデザイナー、鈴木一郎がダークカラーで巧みに統一されたメンズ・ファッション・プロジェクトで、第11回目のITS大賞(FASHION COLLECTION OF THE YEAR)を受賞した。

また、鈴木一郎と同年齢のリトアニア出身デザイナーMarius Janusauskasは、女性の持つ柔らかさを布に存分に表現したファッション・プロジェクトでDIESEL AWARDを受賞。

この2つのファッション・プロジェクトから、現在求められている、男性らしさと女性らしさの強いコントラストが浮き彫りにされたことが興味深い。

アクセサリ部門では、セルビア共和国出身のAna Rajcevicが、シューズ、バッグなどのコレクションを差し置いて、流線型の不思議なフェース・アクセサリでACCESSORIES COLLECTION OF THE YEARを受賞。

最後に、ジュエリー部門では、中国出身のXiao Zi YangがSWAROVSKI ELEMENTS JEWELRY賞を受賞した。



ITS ホームページ
リンク
<http://www.itsweb.org>



第11回目のITS大賞を受賞した鈴木一郎のファッション・プロジェクト。絶妙なカッティングと巧みなグレーのグラデーションが圧巻。



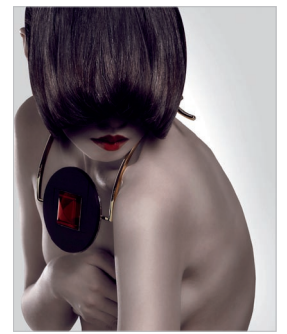
大賞を受賞した鈴木一郎、授賞式の様子。
写真撮影: Daniele Braidà, Gianmaria Gava, Giovanni Giannoni, Elio Germani



リトアニア人デザイナー Marius Janusauskasによるファッション・コレクション。様々な生地使いで、女性の柔らかさを存分に表現している。



セルビア共和国出身のデザイナーAna Rajcevicがデザインしたアクセサリー。質感と流線型が独特な世界を創り出している



SWAROVSKI ELEMENTS JEWELRY賞を受賞した 中国出身のデザイナーXiao Zi Yangの作品。

FSC (Forest Stewardship Council) 森林資源保護団体からの提案

世界各国に広がる森林資源保護の活動は、イタリアでも年を追う毎にその重要性が認められている。

非営利団体「FSC」は、森林資源保護を目的として1993年に発足し、現在では世界各国併せて900の個人、企業などがメンバーとして参加協力している国際組織だが、日本からも、カリモク家具や構造用の集成材を取り扱う秋田グルーラム株式会社、その他製紙メーカーなどがこの協会に加盟している。

イタリアFSCは、2002年に活動が正式に認証され、イタリア国内に5万2千ヘクタールの森林を所有しており、現在印刷メーカー、家具メーカー、デザイナーなど計33社が加盟している。

企業やクリエイターたちのエコロジーへの意識が年々高まる中、昨年2012年にイタリア国内で初めて、家庭用家具のデザイン・コンペ「La foresta in una stanza(室内の森)」が企画された。

参加資格は、36歳以下の若手デザイナーあるいはデザイン・美術系の現役学生に絞られ、また、応募作品はFSC認定の木材を使用していることが作品条件として課されたが、応募総数は116点に至った。

10月5日、ローマ市内にある建築家協会のホールでコンペの授賞式が行われた。以前は水族館として使われていたこの1800年代に建てられた建物内には、大賞などを獲得した4作品のプロトタイプが展示され、デザイン・建築と環境問題についての講演会が行なわれた。

Stella Bertonのモジュール家具「Spline」が、間仕切りや収納家具として室内空間でフレキシブルに活用できる点が評価され大賞を獲得した。

続いて、Mattia Kennethの「Lulù」は机のアーキ・タイプを現代の生活に適用、再考察した実用性が好感をそそり2位に。最後に、Carminé Sessaがデザインした開閉可能なデスクトップを挿入した棚「Stick office」は、家具のボリュームを最小限に抑えた工夫がなされている点が評価を受け3位に。



ローマ建築家協会の内部で開催されたFSCのデザインコンペ授賞式。



大賞を獲得したStella Bertonデザインのモジュール家具「Spline」は、ユニットの角度を変化させることで多目的に使用できる。



クラシックなライティングビューローをひな形に、現代のニーズに合わせた工夫がなされている、Mattia Kennethデザインのル「Lulù」。



Carmine Sessaデザインの「Stick Office」は、省スペースを考へて作られたオフィス空間。



作品展示会場の様子。



FSCイタリアが国内に保有する5万2千ヘクタールに及ぶ森林資源。

Samsung Young Design Award 2012

11月19日、ミラノ中心部に位置するレオナルド・ダ・ヴィンチ科学技術博物館にて、第6回Samsung Young Design Award 2012の授賞式が開催された。

このコンペは、次代のクリエイターを発掘する目的で、2007年からサムスン電子イタリア社がADI(イタリア工業デザイン協会)の協賛により毎年行なっているコンペである。今回のテーマは「都市モバイルの為のエレクトロニクス」。

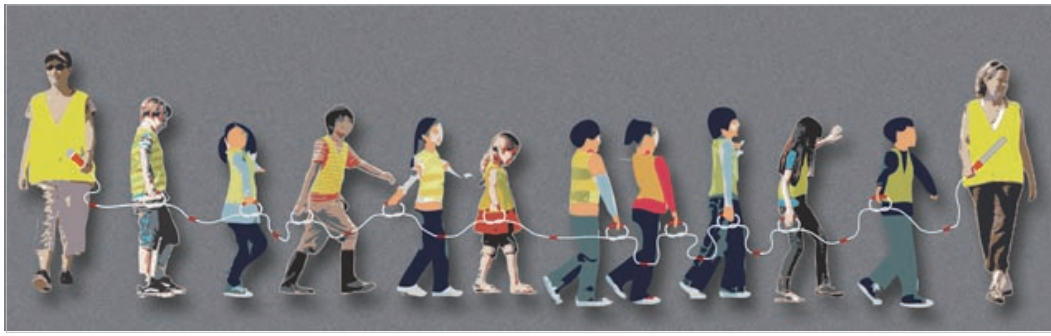
応募対象は、大学生あるいは大学を卒業してから3年以内のデザイナーに限られており、ハイテク世代をターゲットとしているのが特徴である。今年の審査には、デザイナーStefano Giovannoniや建築家Aldo Cibicも参加した。

ゴールド・アワードを受賞したのは、子供の安全を守るモバイル・システム「Arianna」。このアプリケーション・システムは、子供たちのグループが学校と自宅間を安全に行き来したり、学区内で自由に遊ぶことを可能にし、更に地域の住民たちとの交流を深めるというコンセプトを基に制作された。

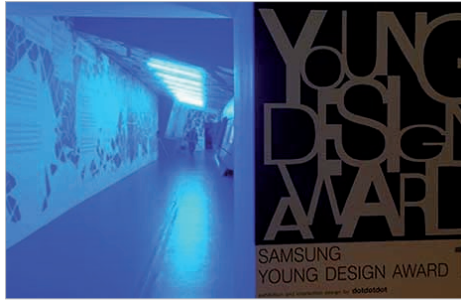
シルバー・アワードを受賞したのは、車の窓ガラスに取り付ける透明でフレキシブルな形状のスクリーンを介して、車内と外界をコミュニケーションさせるプロジェクト「WoWindow」。タッチスクリーンや体の動作の感知システムなど多様なテクノロジーを起用し、魅力的で明快に2つの空間をコミュニケーションさせる能力を備えた画期的なシステムが評価された。

最後に、ブロンズ・アワードは、ストリート・ペインティングにインスピレーションを受けたプロジェクト「D Mark」。ブルートゥースを介して接続されたマイクロプロジェクターとデジタルスプレーから構成されたツールは、動きを感知するセンサーによりプロジェクターを用いて街の外壁を汚すことなくペインティングができる。外壁の「作品」は、ソーシャルネットワークにリアルタイムでアップロードされ、コミュニケーション分野のアプリケーションとしても活用されうる。

同博物館内では11月末まで、ファイナリストに選ばれた11作品も含め、計14点の受賞作品が展示、一般公開された。



ゴールド・アワードを受賞した、モバイル・システム「Arianna」。子供たちは各自持つロープを介して、安全に楽しく自分たちの住む地区を知ることができる。



レオナルド・ダ・ヴィンチ科学技術博物館行われた授賞式会場のエントランス。

会場の中庭には、サムスンのロゴがライティングされ普段の博物館のイメージとは異なり、華やかな一夜となった。

シルバー・アワードを受賞したカー・システム「WoWindow」のプロトタイプ。



「WoWindow」のプレゼンテーション・ビデオ
http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=T6Q1VEKtGjU#

ブロンズ・アワードを受賞した「D Mark」。

今回のレポートで感じたことは、クリエイターの持っている「今までにないものを作りたい」という純粋な創造心と最新テクノロジーが調和した時に、皆を感銘させるデザインができるのだということ。そして、それはGino Sarfattiの時代も現代も同様であるということ。

執筆者 略歴

池田美雪 インテリアデザイナー

武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒

Istituto Europeo di Design 建築インテリア科卒

1994年よりミラノ在住

主に個人邸の改築、パブリックスペースの設計に携わる

設計外に携わったプロジェクトとして

”do it jubunde”展(無印良品、ニコレッタ・ブランツィとのコラボレーション)を企画ならび実現

”Soundesign”展(Marangoniファッションスクール主催)にて弦楽器”Caravantar”を発表

写真雑誌“ZOOM”日本版のコーディネイト、翻訳 など

“TuPlay”展にてグラス楽器”FASOLA”を発表

「Bicarbonato : mille usi per te e la tua casa」執筆 (FAG出版社より)

(イタリアの生活に密着した重曹の活用方法を書き綴った本)

“B.A.C.”展(City Art ギャラリー)にて、インスタレーション”Ma.Ma.Ma”を発表

“Made in Bovisa“(Bodio小学校の子供たちとのプロジェクト)を起案、コーディネイト

現在はクリエイティブ・コンサルティング会社(デジタルゲーム、ウェブサイト、グラフィックデザイン)の共同経営者として活動しながら、デザイン・アートに関するコーディネイト、翻訳および通訳に携わっている